

## 論文番号 60

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Life style, work and stress, and pregnancy outcome

生活習慣、仕事関連のストレスと妊娠・出産の成績

執筆者

Morten Hedegaard

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Current Opinion in Obstetrics and Gynecology 1999,11:553-556

キーワード

life style, alcohol, smoking, work, stress, pregnancy

要旨

いくつかの環境因子が胎児や妊娠に影響を及ぼしている。ストレスと妊娠との間に関連があることがいくつかの研究で認められている。さらにストレスに対する生理学的評価尺度が合併症の危険因子として考えられている。妊娠中のストレスの影響が胎児の性比を変えとも言われている。また受動喫煙の影響は議論が続けられている。

妊娠中の多量飲酒は、大きな危険を及ぼすと言われてきた。しかし、中程度の飲酒は、いくつかの議論がある。ジャコブソンの研究で、480人の幼児の、母親の妊娠中の飲酒量について追跡した研究がある。妊娠中の飲酒量を知らない試験官によって、幼児の6ヶ月、12ヶ月、13ヶ月における、神経発育上の損傷について調査した。この研究は、飲酒量による影響は検出されないという仮説を支持する結果になった。初期妊娠の時期における飲酒は危険だと言われているが、この研究では関係ないと言う結果が導かれた。若い女性よりも若くない女性が飲酒することが危険であるという結論が出されたが、方法論的に今後の検討が必要である。

低体重出産のような妊娠に関連する問題は、妊婦の社会階層の違いによって異なると考えられる。例えば、低社会層の女性では、低体重の幼児を分娩する危険性が高くなっている。また、貧困で恵まれない階層の妊婦は健康に関する環境が悪く病気に罹りやすいと考えられる。その理由としていくつかの研究で、環境と遺伝的要素が関連していると言われている。タバコを吸い続けると低体重の子が生まれやすい。多量飲酒は有害であるが、一日一合から二合は安全である。